

# 「確かな学力を育む教育の推進」

—地域や学校の抱える教育課題の改善に向けて—

滋賀県教育委員会

## はじめに

本県では、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を教育行政の基本目標とし、確かな学力や豊かな心、健やかな体、滋賀の自然や地域と共生する力の育成、信頼される学校づくりを取組の軸に学校教育を推進している。特に、個に応じたきめ細かな指導や各教科等における言語活動の充実に向けた授業改善や学校改善により児童・生徒の学力向上に取り組んでいるところである。

平成22年度は、県内の全ての学校において、確かな学力向上に向けた学校改善・授業改善の一層の推進を図るため、これまでから取り組んできた「学力調査活用アクションプラン推進事業」をもとに、児童・生徒の学力向上に係る文部科学省の「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」や県事業を包括的にとらえ、各推進校での先導的な取組事例を検証した。

また、各アクションプラン推進校（以下、推進校と略）や推進地域を指定するとともに、事業の拠点として滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会を県教育委員会に設置し、各事業の支援や情報共有を行い、確かな学力向上についての取組を展開した。

## I. 都道府県・指定都市教育委員会における取組

### 1. 事業内容について

#### (1) 事業概要

これまでの全国学力・学習状況調査から見

られる本県の課題の改善と、児童・生徒の確かな学力向上のために、本事業の推進地域に湖南市を指定するとともに、同市内の小・中学校から推進校を指定し、授業改善・学校改善による学力向上に取り組んだ。

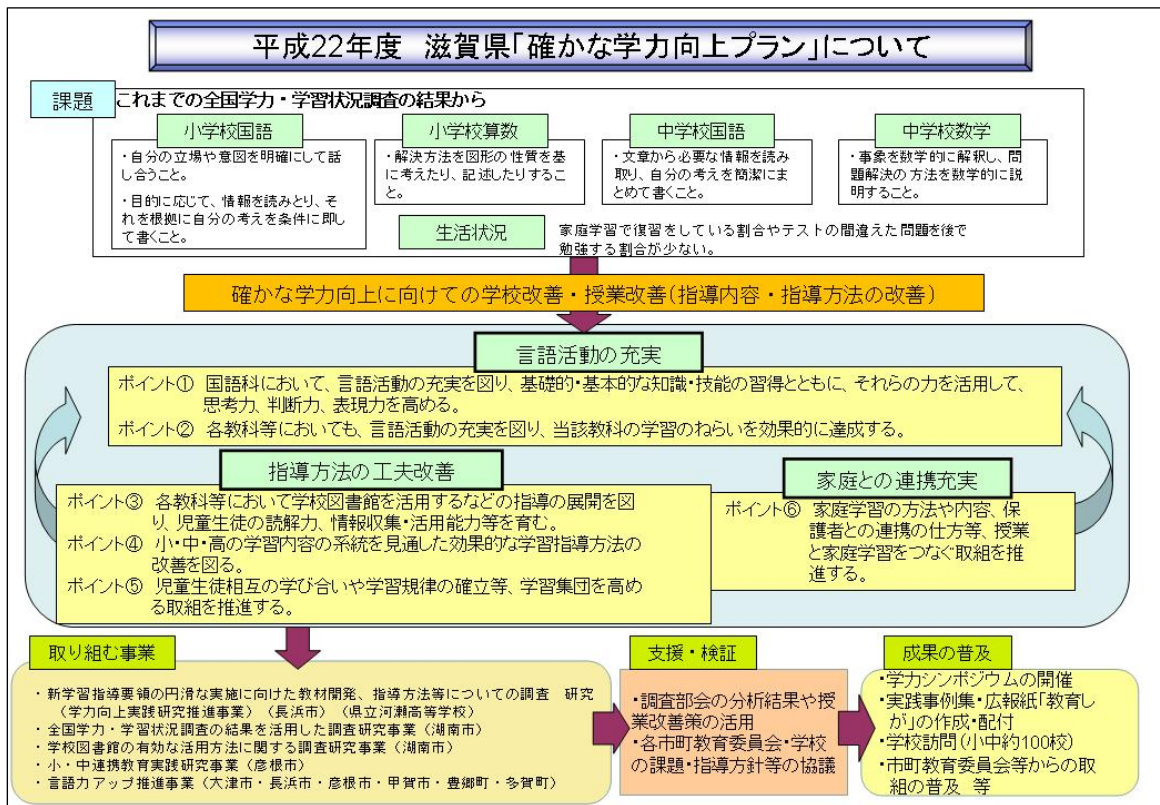
本事業でのアクションプランの推進地域である湖南市は、本県全体で課題とすること同様の課題が見られる市である。加えて、小・中学生の学力についても過去の調査結果において厳しい状況が見られ、市全体が一体となって一定水準以上の取組を展開することが急務である。更に、市内の4中学校区には、本県の各市町の状況や課題を凝縮した状況が見られることから、湖南市の課題を改善することにより、本県の課題を改善するための有効な手立てを得ることができると考えた。

#### ① 県教育委員会の取組

ア 学校改善アクションプラン推進協議会での取組

県教育委員会内に学識経験者を含む滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会を立ち上げ、確かな学力向上に向けた学校改善・授業改善について「平成22年度滋賀県確かな学力向上プラン」を策定するとともに、事業の進捗状況等の情報共有や推進地域や推進校の取組についての協議を行った。

「平成22年度滋賀県確かな学力向上プラン」では、「言語活動の充実」、「指導方法の工夫改善」、「家庭との連携充実」を確かな学力向上に向けての学校改善・授業改善の取組の柱とするとともに、具体的な取組とし



て6つのポイントで推進を行った。(上図参照)

#### イ 推進地域・学校への改善強化

滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会は、推進地域の湖南市の状況改善を目指し教育実践や教育研究、生徒指導等の学校の有する組織的な機能を強化するため以下の点について積極的に取り組んだ。

- ・学校改善推進チームによる訪問と支援
- ・推進校の研究支援のための大学教授等の派遣
- ・調査部会での調査研究(学力定着・学習状況調査、アンケートの実施等)
- ・学校改善研究協議会の開催
- ・評価指標に基づく推進地域及び推進校の取組と改善状況の評価

推進校への支援として、各校へ年間5回～8回、県の指導主事等が訪問し、授業研究、教材開発などの研究支援を行った。

また、推進校間の情報交換や研修の場として、学校改善研究協議会を立ち上げ、それぞれの研究実践を持ち寄ることで各校の研究実践の高まりを図るようにした。

さらに、「学校図書館の有効な活用方法に

関する調査研究」と連携を図り、推進地域や推進校には学校図書館活用指導員や協力員を派遣し、学校図書館の図書資料を活用した授業改善等による学力の向上を図った。

#### ウ 学校改善・授業改善への資料提供

学校改善アクションプラン推進協議会のもとに設けた国語、算数・数学、学習環境の調査部会において県全体の状況分析と授業改善のための方法を研究し、指導例や授業改善のためのチェックシートを作成した。また、県総合教育センターで、各学校の学力状況や課題を分析する「スクールコンパス」の活用を図るとともに、新たに、児童・生徒の状況をより的確に把握するための分析ソフト「パーソナルコンパス」を開発し、県内全小・中学校へ配布することで、より詳細な分析と課題解決に向けての取組を展開した。

#### ②推進地域(湖南市教育委員会)の取組

エ 探究的な学びについて、様々な情報源から課題を見つけ、問題を解決する力の育成(取組例:学校図書館の有効な活用)

- 学校図書館支援センター事業による協力員の配置

湖南省「学校図書館支援センター事業」により学校図書館活用支援員を教育委員会内に配置し、市内小・中学校には学校図書館協力員を配置して、授業に有効活用できる図書資料の収集と整理・管理を図った。また、授業で活用する図書資料については、市内の各小中学校および公立図書館と連携し、図書流通を使うことで、1人に数冊の図書を確保し、図書資料を目的に応じ適切に活用する力の育成を図った。

オ 交流を通して互いに学び合える力の育成  
(取組例：児童・生徒が主体となる授業改善)

湖南省では、中学校区ごとに言語力の向上に取り組み、小中連携により、小学校での共通実践が中学校で生かせるようにした。また、事業推進の中心に研究主任をあてるとともに、市内小中研究主任会を開催し、各校での連携を図りながら言語力の向上にかかる取組が進められるようにした。とりわけ、今年度は、伝え合う力をキーワードに集団の交流を通して共に学び合う授業改善に取り組んだ。

また、児童・生徒の様々な家庭環境に応じた自主的な学習力を育成するため、学習規律の確立と家庭学習の定着について教務主任を中心に学校全体で共通実践する体制を整えた。

カ 学びの基礎となる力の育成(取組例：学習意欲を喚起する授業)

○家庭学習の工夫

児童・生徒が、家庭学習に意欲的に取り組めるよう、家庭学習のプリントの工夫に取り組むとともに、それぞれの推進校で家庭学習の手引き書を作成し、児童・生徒と保護者に説明する等によりその推進を図った。

○1時間の流れが見える授業の工夫

授業改善の柱として、児童・生徒が1時間の見通しをもって学習できる授業の工夫を推進した。1時間の授業の学習内容が一目で分かる板書の工夫や児童・生徒へのノート指導、1時間の流れを提示し、課題やその解決

を意識できる授業の工夫等を行った。

キ 地域からの学校支援の充実

湖南省では「学校と地域が一体となって子どもを育てる」視点に着目し、相互扶助と協働の新しい学校づくりを、「学校支援地域本部」事業や「コミュニティ・スクール」の推進を中心に進めてきた。

○家庭学習が積み上げにくい子どもたちへの地域支援『土曜教室』の開催

地域の退職教職員、学生、地域等のボランティアによる地域主体の活動「土曜教室」は、家庭での学習環境が得にくい子ども、外国籍の子ども等を対象とし、支援はマンツーマン学習を基本として実施した。

○日々の学習に参加しにくい子どもたちへの学習支援

地域のボランティアによる学習の個別支援を数名のボランティアが担任と協働で行った。子どもの課題の解決や寄り添い「受容」してくれるよき相談者としての地域ボランティアの存在は、子どもの穏やかな日々の学校生活に繋がった。

○学校図書館の活用機能を有効活用した学習支援

学校図書館の活用機能を有効活用するために、学校図書館支援ボランティアを活用し、図書館の環境整備、読み聞かせ、図書館活用を主とした積極的な学習や学校行事へのかかわり等の活動を実践した。また、市教育委員会でも小学校・幼稚園等の図書館支援ボランティアのニーズを受け交流研修会を企画し取組の向上を図った。

## (2) 実施体制

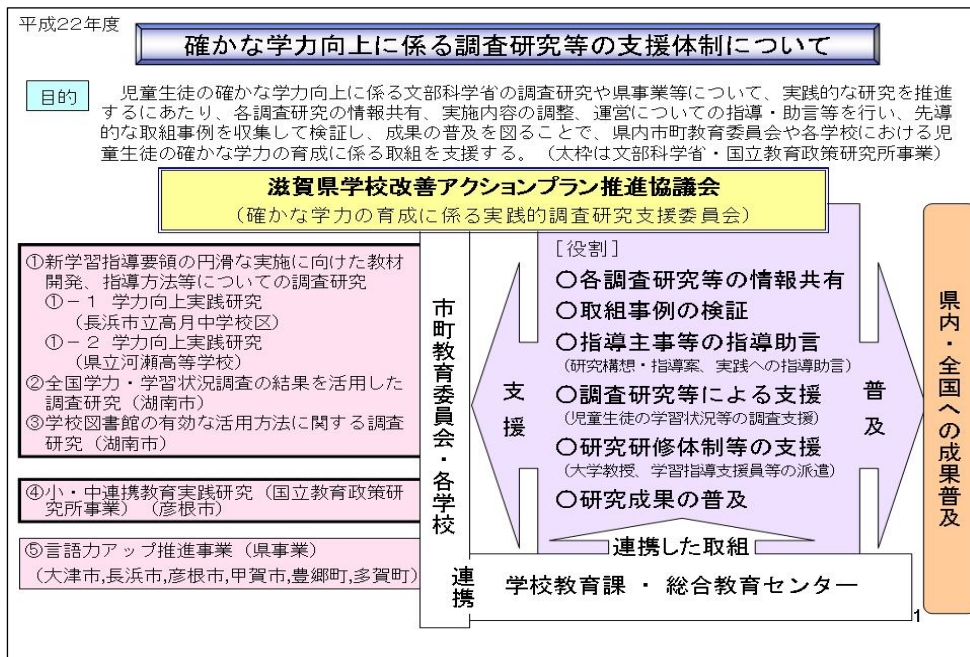
本事業の実施にあたり、県小学校長会、県中学校長会、確かな学力向上に係る事業の関係市町教育委員会の協力のもと、県教育委員会事務局学校教育課と県総合教育センターが連携した「滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会」を組織した。同協議会では、事業推進地域や推進校において学力や学習状況等に関する改善に向けた具体的な教材の研究や指導方法の研究等の取組に関する



実践研究を行うとともに、その成果の普及に努めた。（右図参照）

また、同協議会には、国語、算数・数学、学習環境の3部会を組織し、調査結果の分析と考察、および学校改善に結びつく取組や具体的な授業実践についての調査研究等を行った。

さらに、推進地域の湖南省、推進校3校、県教育委員会事務局学校教育課員および県総合教育センター職員等からなる「学校改善研究協議会」を組織し、各校の研究実践の高まりを図るようにした。（下図参照）

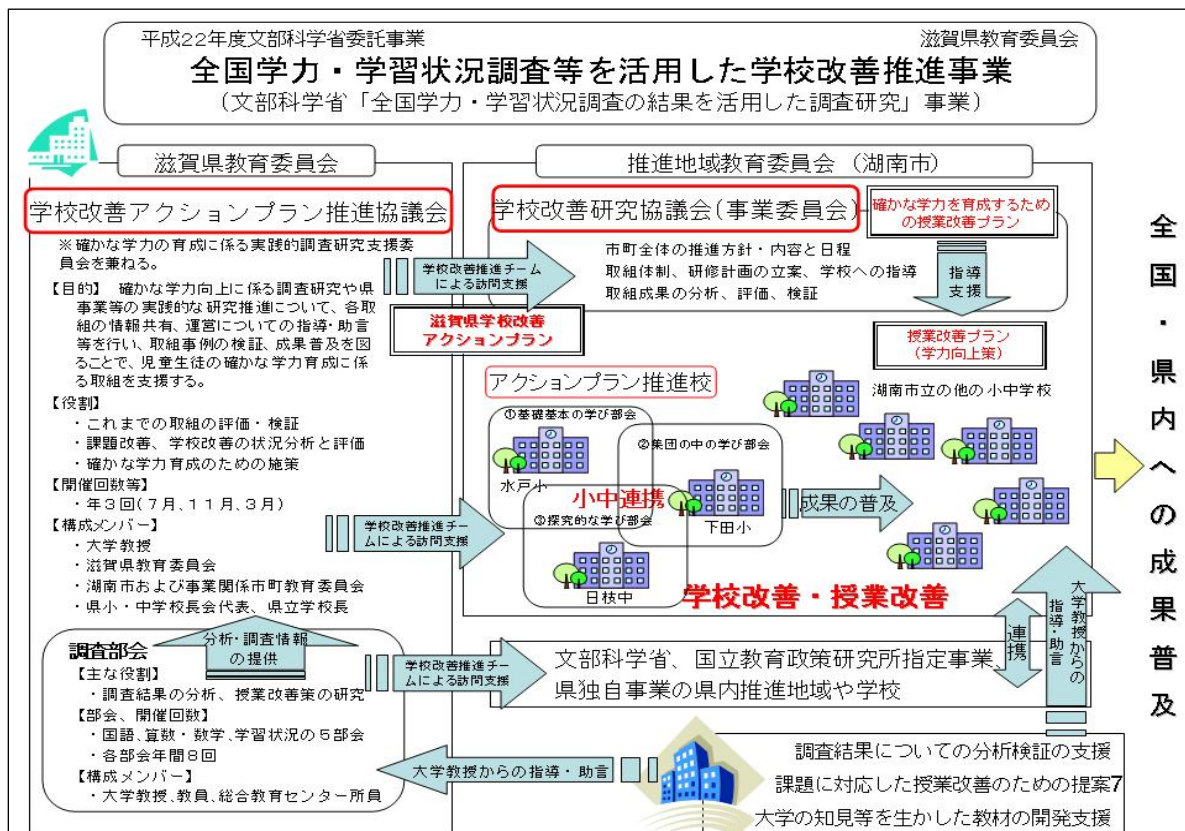


### (3) 研究成果

#### ①県教育委員会の取組について

##### ア 滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会

確かな学力向上に向けた学校改善・授業改善について「平成22年度滋賀県確かな学力向上プラン」を策定し、県内の学力向上にかかる事業を包括的に捉え、推進地域の教育委



員会、県や小中校長会との連携のもと、事業の推進を図った。第2回の推進協議会は、推進校の湖南省立下田小学校で開催し、学校改善・授業改善について具体的な方法について協議を行い、市町教育委員会での推進校への指導・支援についての方向性を与えることができた。

#### イ 事業推進校等への支援

推進校へ県の指導主事が訪問し、授業研究、教材開発などの研究支援を行った。指導主事が継続して複数回訪問指導することで推進校の研究内容に一定の方向性を与えるとともに、具体的かつ焦点化された取組を展開することにより、各校の確かな学力向上に向けた学校改善・授業改善を推進することができた。

#### ウ 各学校への学校改善・授業改善についての資料提供

学校改善アクションプラン推進協議会のもとに設けた国語、算数・数学、学習環境の調査部会が県全体の状況分析と授業改善のための方法を研究し、授業改善のためのチェックシートや指導例を作成するとともに、指導例についての検証を行い、実践事例集にまとめ、県のホームページで公開した。

また、各学校において、学力の状況や課題を分析する「スクールコンパス」の活用を推進するとともに、新たに、児童・生徒の状況をよりの確に把握するための分析ソフト「パーソナルコンパス」を開発し、県内全小・中

学校へ配布することで、児童・生徒の一人ひとりに合った詳細な分析と課題解決に向けての取組ができるようにした。

#### ②湖南省教育委員会の取組について

##### エ 学校改善研究協議会

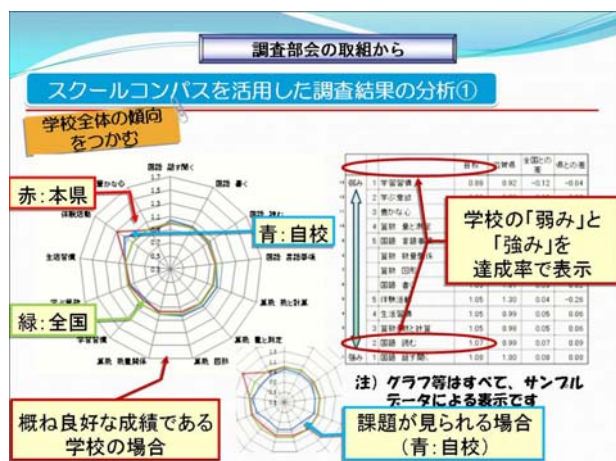
滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会で策定した「平成22年度滋賀県確かな学力向上プラン」をもとに、湖南省教育委員会では、学校改善研究協議会を設置し、事業の推進を図った。学校改善研究協議会では、推進校の研究実践を持ち寄ることで各校の研究実践の高まりを図るとともに、県の教育研究会（国語科・学校図書館教育）と連携を図り、研究の方向性を見いだすことができた。また、これらの研究協議会により、湖南省としての組織的な取組がなされ、推進地域全体の学校改善に寄与することができた。

##### オ 学校図書館支援センター事業

「学校図書館支援センター事業」で、学校図書館支援スタッフを教育委員会内に配置し、市内小・中学校には学校図書館協力員を配置して、「学校図書館体系表の作成」や授業に有効に活用できる図書資料の収集と整理・管理を図った。また、授業で活用する図書資料については、市内の各小・中学校および公立図書館と連携し図書流通を使い、1人に数冊の図書を確保し、比較することから適切に選ぶ力の育成を図り、授業改善の支援を行った。このことにより、児童生徒の情報収集・活用能力等を育むとともに、主体的に学ぶ意欲・態度を養うことができた。

##### カ 言語力向上事業

中学校区ごとに小・中学校で連携を図り言語力の向上に取り組んだ。小・中が交流することで、小学校の共通実践が中学校で生かせると考えている。今年度は、伝える力「書く・話す」をキーワードに集団の交流を通して共に学び合う授業改善に取り組んだ。また、事業の推進の柱となる各校の研究主任が中心となり、市内小中学校研究主任会を開催した。各校の校内研究に言語力の向上にかかる内



スクールコンパスによる分析

容を入れ全校体制での取組が進められたことにより、市全体としての授業改善の取組を推進することができた。

キ 「学校支援地域本部」・「コミュニティ・スクール」事業

学校支援地域本部やコミュニティ・スクール事業との連携を図り、地域からの学校への支援の充実を図った。地域の力を借り、家庭学習が積み上がりにくい子どもを対象とした地域支援『土曜教室』の開催や日々の学習に参画しにくい子どもへの学習支援、掃除経験の少ない小学校1年生への清掃指導支援ボランティア、学校図書館の活用機能を有効に活かした学習支援等を実施することで日々の子どもの状況に応じた授業を展開することができた。

## 2. 普及啓発と今後の取組について

### (1) 成果の普及啓発に関する取組

#### ①児童・生徒の学力・学習状況・学習意欲についての検証

調査部会において、平成22年度4月実施の全国学力・学習状況調査において明らかとなった推進校での課題等についての再調査を行い、実践の検証を行うとともに、その後の取組の改善に生かした。

#### ②事業推進校でのPDCAサイクルを活用しての取組と検証

調査部会における推進校の支援として、定期的に部会を開催し、推進校における「調査結果の分析」「アクションプランの策定」「取組の推進」「実践の評価と活用」といったPDCAサイクルを活用しての学校改善・授業改善の取組を支援した。

##### ステップ1

「調査結果の分析」→スクールコンパスによる分析を行う。

##### ステップ2

「アクションプランの策定」→分析結果を授業改善に生かす。各校が独自のアプローチを検討し、アクションプラン

として策定する。

##### ステップ3

「取組の推進」→各校で「きめ細かな学習指導」と「学びを支える学習環境作り」をアプローチの柱として推進する。

##### ステップ4

「実践の評価と活用」→児童・生徒質問紙再調査による検証と改善

#### ③指導主事等の推進校への訪問における実践の検証

各推進校に担当指導主事を位置づけ、継続的に指定校訪問を進めることで、取組の構想の段階から、具体的な授業場面での指導、日常的な取組の指導、実践研究の検証までの指導助言を行うことで、より効果的な実践研究が進められるようにした。

授業研究会においては、公開される教科等の担当指導主事が訪問し、教科等の特質に応じた指導や検証を行い、授業分析や改善の取組を進めた。

#### ④事業推進校での研究成果の広報

県教育委員会の取組や推進地域・推進校での学校改善や授業改善の研究成果を広めるために、「学校改善・授業改善実践事例集」の全小・中学校への配布、保護者全員に広報

誌「しが」による本県の全国学力・学習状況調査の結果や学びの視点についての広報、教育委員会ホームページにての学力向上にかかる指導例の更新を行った。

また、県総合教育センターを会場に県内の教員を対



学校改善・授業改善実践事例集



象に「研究発表会」を開催し、学力向上の取組への啓発を図った。

## (2) 来年度以降の取組

本県では、これまでの取組の検証から一層の言語活動の充実を図り、各教科等での思考力・判断力・表現力を育むことや、小学校・中学校・高等学校の学習内容を見据えた効果的な学習方法の改善を図ること等に課題が残されている。

そこで、来年度は、教科間の「横のつながり」や、校種の「縦のつながり」をキーワードに、新たに「平成23年度確かな学力向上プラン」を策定し、次の点を重点課題として取り組むこととしたい。

- ①思考力・判断力・表現力を育むための各教科等における言語活動の充実
- ②小学校・中学校・高等学校の学習内容の系統を見据えた効果的な学習方法の改善
- ③推進校、市町教育委員会、県教委委員会が役割を明確にした確かな学力向上の取組
- ④調査部会による学校改善・授業改善の支援と検証
- ⑤推進地区や推進校の取組の成果の普及

また、上記の重点課題に対して、本県教育委員会は、推進地区や推進校を指定し、次の点について取り組みたいと考えている。

- ・国語科で付けた言語の能力との有機的な関連を図る各教科等での言語活動の充実
- ・児童・生徒の読解力、情報収集・活用能力を育むための学校図書館の有効活用
- ・中学校ブロックを単位とした学習方法の有機的な関連を図る取組の推進
- ・家庭との連携強化や授業改善による学習習慣の定着ならびに学習意欲の向上
- ・指導主事等による推進校の継続的な訪問による確実な学校改善・授業改善の推進
- ・推進地域での「学校支援地域本部」事業、「コミュニティ・スクール」等の地域支援の推進
- ・推進地域内各校の研究主任を中心とした授業改善の取組についての連携及び教務主任を中心とした学習規律と家庭学

習の定着についての連携の推進

- ・全国学力・学習状況調査を活用した児童・生徒の状況の把握と検証改善サイクルの支援
- ・調査部会（授業改善部会）による推進校の授業改善の支援および県で作成した指導例（指導案・教材）の効果的な活用の検証
- ・「滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会」や推進地区での「学校改善研究協議会」を開催し、取組の成果の普及
- ・県内の全教員を対象とした事業交流発表会の開催や、実践事例集の作成、確かな学力の育成に係る県のホームページの更新による県内の学校改善・授業改善の推進

## II. 推進校における取組事例

### 取組事例①

「自分の考えをもち、生きてはたらくことばの力をもつ子の育成」

湖南省立下田小学校

#### (1) 学校の状況について

児童数311名、14学級、教職員数29名の学校で、「『大成』をめざし、豊かな心をもち、学び楽しみ自ら磨き続ける児童の育成」を学校教育目標とし、学力向上に向けた授業改善・学校改善に取り組んでいる。

#### (2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

##### ①授業の改善

- ・「読む」「書く」の力を活用する授業、学校図書館を活用した授業  
図書流通システム等を活用し、並行読書を取り入れた授業
- ・単元構成の改善を切り口にした授業  
場面読みから全体読みへの単元構成の改善



付箋を使って一人学習を進めていく。付箋はそれぞれのおもしろさに色わけして。

- ・人間関係を重視した授業  
一人ひとりの読みを全体の場で交流することで、自分の読みを深める学習
- ②日常の言語指導
- ・朝の帯タイムを活用した基礎的な内容の定着と学習習慣づくり  
読書タイムや読み聞かせの取組の推進
- ・「学びのすすめ」による家庭学習の習慣づくり  
「下田小学びのすすめ」による家庭学習の充実  
児童が主体的に取り組む自主学習の推進と取組の交流



#### 自主学習ノートの取組

- ・学習の足跡から自分の考えを記すノートへの指導  
全職員の共通実践によるノート指導  
書き写すノートから考えを記すノートへの改善

#### (3) 成果について

児童質問紙等調査から次のような成果が明らかとなった。

(児童質問紙調査から・肯定的回答率・第6学年対象)

- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり聞いたりしている。

4月調査 52.1% → 12月調査 87.5%  
(+35.4%)

- ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。

4月調査 58.9% → 12月調査 83.3%  
(+24.4%)

(学校独自調査から・全学年対象)

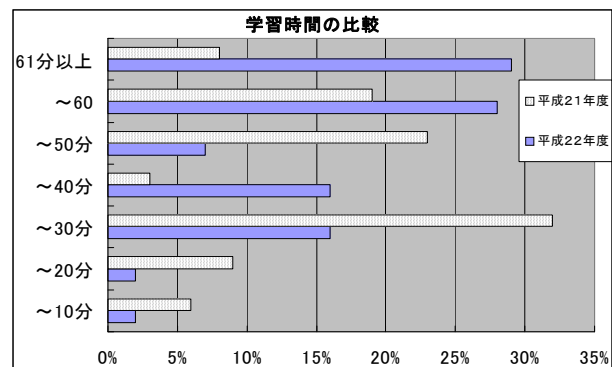
- ・学校図書館の貸出冊数

年間 450冊以上の増加(4月～12月)

- ・授業において図書を活用した冊数

年間 1200冊以上の増加(4月～12月)

(学校独自調査から・第4～6学年対象)



学校で作成した「学びの手引き」等の取組から、家庭学習の時間や、予習や復習する児童が増加した。平成21年度は、家庭学習の時間の最も多い時間帯が30分だったが、平成22年度は60分や61分以上が多くなった。また、10分、20分と答えた児童は2%と減少した。

#### (4) 来年度以降の課題について

授業内での発問や学習課題の与え方等については、さらなる教材研究が必要であることが見えてきた。また、「読み」を深めるためには交流が大切であり、一問一答式授業からの脱却を授業者が意図的に取り組んでいくことが今後の課題であると言える。



学校独自の調査では、「読む」「書く」力については、児童自身の伸びの認識はあったが、「書くこと」については、保護者の認識が低いという結果があった。今後は、児童の学習成果物を記録として残し、保護者へ学習状況として伝えることにより、家庭・学校との連携を図っていききたい。

さらに、今年度スタートしたノート指導術や板書計画の改善、学びのすすめ等を更に充実することで、高まりのある学習意欲を大切にしたい。全校での共通実践を展開していききたい。

**取組事例②**  
**「互いの立場を大切にすぬくもりのある集団の中で、心を通わせ合う水戸っ子の育成」**  
**湖南省立水戸小学校**

**(1) 学校の状況について**

児童数432名、18学級、教職員数41名の学校で、「自主性創造性を持ち心豊かでたくましく生きる子どもの育成」を学校教育目標とし、学力向上に向けた授業改善・学校改善に取り組んでいる。

**(2) 全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について**

**①人間関係を構築していく授業改善  
 学びたくなる授業の導入の工夫**

子どもたちに疑問を投げかける等の授業の導入の工夫

思いを表す活動（書く活動）の充実  
 考えをまとめる、表す等の学力向上の基本としての書く活動の推進

**学習の足跡を残す活動**

児童の思考を整理したり、交流を深めたりするための板書の工夫とそのため学習指導案の改善

**②学習規律づくり**

**学びの習慣づくり**

「家庭学習のすすめ」をもとにした保護者による話合いの場の設定による家庭学習の充実

**家庭学習強化月間**

**学年通信等による家庭学習強化月間の啓発**



**家庭学習のすすめ**

**(3) 成果について**

児童質問紙調査から次のような成果が明らかとなった。

(児童質問紙調査から・肯定的回答率・第6学年対象)

- 自分にはよいところがある。  
 4月調査60.9%→12月調査71.8%  
 (+10.9%)

- 家で学校の授業の復習している。  
 4月調査34.4%→12月調査52.1%  
 (+17.7%)

- 学校で授業時間以外に、普段(月～金日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。  
 (1時間以上勉強している。)

4月調査43.8%→12月調査55.0%  
 (+11.2%)  
 (全くしない。)

4月調査 9.4%→12月調査 0%

※家庭学習をしない児童が0%になる。

- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きませんか。(週1回以上行く。)

4月調査9.4%→12月調査25.3%  
 (+15.9%)

全ての教師が授業改善の必要性を強く感じたことで、「学級づくりは授業づくりから」を意識して授業に臨むようになった。研究に

取り組み、学びたくなる授業づくり（導入の工夫・思いを表す活動・学習の足跡を残す活動）等の展開を行い、子どもたちにわかる授業、楽しい授業が展開できるようになった。また、子どもが分かりやすく学ぶことのできる授業をすれば、課題のある子も積極的に学習に取り組む姿が見られたことも大きな成果であった。

#### （４）来年度以降の課題について

本年度の取組から課題として次の点があげられる。

- ・研究授業での授業改善は進んできたが、その成果を共有し、教師一人ひとりが、日々の授業で実践していくこと。
- ・書くことの力の推進を図るために、えんぴつタイム（毎朝10分間）での積み上げを図ること。
- ・「家庭学習のすすめ」等を活用し、保護者との連携を図り家庭学習を充実させること。
- ・授業の中で学年相当の基礎学力がつきにくい子どもへの学力補充の場を設定すること。
- ・親育ちにつながる草の根研修会を開催すること。

学級において学習の規律を整え、学校全体として学びの習慣をつけていくことが非常に大切である。授業がわかる、家庭学習の量が増える、読書の量が増えるなど芽吹いてきた芽を今後もさらに膨らませていけるように、取組の充実と教師力のアップを図っていききたい。

#### 取組事例③

「確かな学力の育成を目指して」  
湖南省立日枝中学校

##### （１）学校の状況について

生徒数314名、11学級、教職員数34名の学校で、「WE LOVE HIE・輝け！日枝中～創意と活力に満ちた学校～」を学校教育目標とし、学力向上に向けた授業改善・学校改善に取り組んでいる。

## （２）全国学力・学習状況調査の結果等を活用した取組について

### ①授業規律の確立

- ・生徒の主体的な取組による授業規律の確立

生徒のアンケートから授業規律に係る学年スローガンを決定し、全校集会の場で発表し、実践する。実践後、振り返りを行い授業規律の確立を図る。



1年生の全校発表とスローガン

### ②授業力の向上

授業の共通実践

1時間の目標を明確にした授業、グループワークの取り入れ、授業の振り返りと家庭学習との連携の共通実践



ペアワーク 家庭科

### ③家庭学習の支援

漢字検定への取組

学びへの関心・意欲の向上

「学力補充の日」の設定とその充実

毎週1回を放課後の部活動を無しにした基礎学力の向上

「学習の手引き」の作成と活用

定期テスト前の家庭学習計画の際の活用を図る。

家庭学習ノート

学習ノートづくりの推進による家庭学習の習慣化

「効果的な学習のしかた」をテーマにした親子研修会や「現役高校・大学生」との進路についてのディスカッション

### (3) 成果について

生徒質問紙調査から次のような成果が明らかとなった。

(生徒質問紙調査から・肯定的回答率・第3学年対象)

- ・家で苦手な教科の勉強をしている。  
4月調査30.7%→12月調査57.0%  
(+26.3%)
- ・家でテストで間違えた問題について、後で勉強している。  
4月調査14.4%→12月調査38.0%  
(+23.6%)
- ・家で自分で計画を立てて勉強している。  
4月調査35.6%→12月調査51.0%  
(+15.4%)
- ・家で学校の予習をしているか。  
4月調査39.4%→12月調査52.0%  
(+12.6%)

公開授業や授業研究会、その後の取組の交流等を通して、授業力向上に努めなければという気運は高まってきた。生徒同士の学び合いを支えるグループ学習のよさが取組からも実感でき、授業改善の方法として積極的に取り入れていこうという姿勢が見られるようになった。

### (4) 来年度以降の課題について

生徒が落ち着きを見せてきた中で、学力向上に対して様々な策を立てて取り組んできたが、次のような課題があり、一層の取組が必要である。

- ・小・中の連携をより充実させるために中学校区として、小学校の全クラス授業参観とテーマ別分散会を計画的に設定して実施していくことが必要である。
- ・基礎基本の充実を目指して「漢字検定」への挑戦、「学力補充の日」の取組を、次年度も継続し、“できた・わかった”

という喜びを次への意欲につなげていく。

- ・学校での生徒の学びを、家庭で評価してもらう取組を考える。
- ・参観日などの学校公開日への保護者の参加者数を増やし、保護者の関心を高める工夫等、家庭との具体的な連携を考える。
- ・本年度の学力向上への取組を継続していく中で、保護者とともに地域を巻き込んだ形を模索する。

以上の点を踏まえて、生徒の学習意欲の向上、そして学力の向上を目指したい。